



今回私は、「育ちの中から見えるもの」というお題をいただきました。フリーという立場で様々なクラスに関わらせてもらうようになってから、早いもので3年目を迎えました。実際にクラスを担当していた時とは違い一歩離れた立場となった事で、見えてくるものが大きく違ってくるのだなという事を、最近では特に強く感じるようになりました。今回のお題として頂いた、【子どもの育ちの中に見える】というのがより鮮明になったのも、フリーとして関わるようになってからです。例えば、2歳児クラスの子どもたちの姿です。以前は歩行が不安定で転倒しやすく、時には激しく転んで大ケガ…なんていう事もあった子どもたちですが、最近では足腰の力がついてきただけでなく、自分の身体を手で支える為の力や反射も養われ、ケガをする事が大きく減ったように感じます。そうした子どもたちの変化の背景には、遊びの中で取り入れている『動物模倣』の“クマ歩き”などがあり、またさらにその背景には、『子どもたちが元気に・安全に・楽しく身体を動かして過ごせるように』という担当職員たちの願いであったり思いがあるのだという事を感じています。もう一つのエピソードとして、5歳児クラスの子どもたちです。例えば何かの行事があった時など、必ずクラスの誰かが掛けてくれるのが「〇〇の片付けありがとうございます」という言葉です。自分が意識してしている事でなかったとしても、「ありがとう」と感謝の言葉を掛けてもらうととても気持ち良く、“誰かの為になった”と嬉しい気持ちになりますよね。きっとクラスでも、“全ての事が当たり前ではなく、感謝の気持ちを持つ事の大切さ”を子どもたちに感じてもらえるように、という職員の思いがあるのではないかなと感じています。今回は2クラスのエピソードを紹介しましたが、その他にもそれぞれのクラスの子どもたちの姿・成長から、職員たちの思いに触れる機会がたくさんあります。

私は、子どもたちと子どもたちの成長は、画家と絵画にも似ていると感じます。画家によって作風がまったく異なるのは、生きてきた時代背景など、周りの環境による感じ方や心を動かされるものの違い等…とても様々だとは思いますが、大きく考えると、【心を動かす影響を受けたものの違い】というのも強く関係しているのではないかなと思います。例えば、現在、白いキャンパスに絵を描き進める途中段階の子どもたち。これからどういう絵が出来上がっていくかには、【子どもたちが大好きだと感じる周囲の大人】の思いや願いが強く影響を与えることでしょう。保護者の方との話の中で、『どんな子に育ててほしいか』をイメージする事の大切さについてお話しする機会が多々ありますが、それは本当に大切な事で、そのイメージや思いが、直接的にも間接的にも子どもたちの描く成長の姿として見えてくるはずです。だからこそ改めて、“大切にしたい事”を家庭と園とで共有する事で、より良い育ちに繋げていけると良いかなと思います。

このように考えられるようになったのも、冒頭で伝えさせてもらったように、様々なクラスに入り、子どもたちの姿・職員たちの取り組みに触れる事が出来ている今があっての事です。子どもたちに対する声掛けや、普段の会話、また日誌を通しての職員一人ひとりの分析など、全てが繋がってより鮮明に見えてくる物も多いです。フリーという立場だからこそ感じられるそうした見え方を保護者にも伝えられると、職員の思いなどが届く事も多いと感じるので、そうした役割も担えると良いなと今回のスピーチを考える中で感じました。また、改めて自分も、教育・保育の中にしっかりと“思い”を持つ事を大切に、今後も頑張っていきたいです。

(2019年10月)

